

「映像で台東区を振り返る」 台東区映像アーカイブ「70周年記念作品」ができました

台東区発足70周年を記念し、これまで収集した映像資料をまとめ、戦後から平成までの台東区のうちりかわりを収録したDVDを制作しました。

映像は、空襲のつめあとの残る町並みから、お祭りの風景、復興する町並みのほか、台東区にゆかりのある文化人の紹介などが収録されています。



▲空襲で焼けた町を歩く親子



▲浅草寺宝蔵門落慶



▲1964年東京オリンピック聖火リレー

■ 台東区映像アーカイブとは？

アーカイブとは記録や資料の保存のことです。区民の皆様がお持ちの8ミリ・16ミリフィルム等の昔のフィルムをデジタル化し、貴重な映像を区の財産として残していくとともに、それを広く公開していくことを目的としています。

■ 昔の台東区の映像を探しています

フィルムは保存状態によっては劣化し散逸する恐れがあります。現在、次のような映像を探しています。

- ・ 台東区の町並みや風景が映っているもの
- ・ 台東区のお祭りや生活文化が記録されているもの

これらの映像をお持ちの方は下記担当までご一報ください。

■ 「台東区映像アーカイブ」公開作品DVDの貸出しについて

中央図書館2階視聴覚資料コーナーで貸出しています。なつかしい町の風景やお祭の様子などが盛りだくさんです。ぜひご利用ください。

● お問合せ先：生涯学習課文化財担当 ☎5246-5852



「オーケストラで校歌を」台東区立小・中学校校歌集ができました

本年は、旧下谷区と旧浅草区が合併し、台東区が発足して70周年の節目の年にあたります。

そこで、これを記念し、台東区が発足した昭和22年の4月1日以降に閉校した区立の小・中学校及び現存する区立の小・中学校の校歌を、藝大フィルハーモニア管弦楽団と台東区ジュニアオーケストラの演奏により収録した校歌集CD及び歌詞集を作成しました。

校歌は、その学校を象徴する歌であり、伸びゆく子供たちに対する、学校関係者や保護者等の願いが込められています。

■ 収録した小・中学校

昭和22年4月1日以降現在までに閉校した区立小・中学校
内訳：小学校14校 中学校8校 計22校
現存する区立小・中学校
内訳：小学校19校 中学校7校 計26校

■ 校歌集CDの貸出しについて

中央図書館2階視聴覚資料コーナーなどで貸出しています。ぜひご利用ください。

● お問合せ先：庶務課庶務係 ☎5246-1402



連載

子供に聞かせたい、こんな話

その24

ゴッホの運命の出会い

—— 棟方志功 ——

青森県に生まれ、国際版画グランプリを受賞して世界的に注目された版画家の棟方志功（一九〇三〜一九七五）は、貧しい青年時代を送りました。少年時代から画家を志してはいましたが、まだどういつい絵を描きたいという具体的な希望はなかったようです。

ところが、十八歳のとき、志功はゴッホの絵に出会います。太陽に挑戦するかのようにはびこる、荒々しいタッチの『ひまわり』を見て、志功は生まれて初めての感動を覚えたのでした。

「ワ（東北弁でわたし）、自分のこと）だば、日本のゴッホになる。」と、志功は叫んだのでした。

「あのひまわりの絵を見て、目ん玉が飛び出る思いだった。あとは、なんにもねえ。」

と、志功はのちにごう述べています。それ以来、ゴッホに夢中になりました。

志功は、本名を棟方彦といます。しかし、郷里の青森の人たちは「ヒコ」と発言せず、なまって「スコ」と呼びました。このスコが愛称となって、のちの画名の「志功」になるのです。

ゴッホに熱中している志功を見て、当時の志功の青森の友人たちは、「スコは、風邪でも引いてるんでねえか。いつでもゴッホ、ゴッホと言うてる。」

と、笑い合ったというエピソードがあります。

初めは画家を志していた志功でしたが、ゴッホに影響されて絵を描いているうちに、自分は版画の方がむいてると思いはじめたようです。志功は極度の近視で、厚いレンズの眼鏡をかけ、版木をなめるようにして、一心に彫り続けていたといえます。

人には、一生を左右するような出会いがあるといえます。志功はその出会いをゴッホにもとめ、みごとに成功させた芸術家でした。



「出典」有馬朗人・中西進・奈良康明・宮坂有勝監修「増補改訂日本例話大全書」四季社

平成十三年

※出典の書籍より、文章を小学生向けに言い回しや歴史的仮名遣い等を直して掲載しています。

小学校1〜3年生用「こころざし」教育副読本に掲載

お問い合わせ先：教育支援館 ☎5246-5921